



「人の目と仏の眼」

七条袈裟（空城君の袈裟模様）

住職

兵庫県の丹東町に、東井義雄というお念仏に生
きられた先生がおられました。先生の詩に「おば
あちゃん ありがとう」というのがあります。

こつくり こつくり いねむりしていらつしやる
おばあちゃん

わたしの話でも 聞いてやろうと

ここまで来てくださったのに

おばあちゃんのはしいものを

わたしがようさしあげられないものだから

こつくり こつくり

いねむりしていらつしやる すみません

それなのに おばあちゃん

わたしは さつきまで 聞いてくれたら

いいのにとおばあちゃんをうらみました

すみません

気がついてみたら おばあちゃん

私もせつかくこの世に出していただきながら

聞くために 耳をいただきながら

聞こうともせず 求めようともせずに

目をあけたまま いねむりしてきたのです

おばあちゃんはいねむりは さつきからですが

わたしは 六十年も

目をあけたまま いねむりを続けてきたのです

そのことを おばあちゃん

あなたは私に 気づかせてくださいました

おばあちゃん ありがとうございます

如來さま すみません

人間の目では、他人の非しか見えません。しかし、仏さまの眼は、私に「私自身の非」を気づかせてくれます。それがお念仏を聞くことです。

「得度」とすると「僧侶」と呼ばれる身になります。このたび信行寺の空城君が「得度」しました。僧侶は、知識、知性だけで人生をすごしている人々に、仏の眼で見られている世界、お念仏を聞いていく人生を勧める役目を担います。それが「得度」したという意味です。

ある時、本を読んでいましたら面白いことが書いてありました。有名な幽霊の絵を見に行った二人のお婆さんの「つぶやき」です。

一人は、うらみつらみで睨みつける幽霊の絵を見て、「うちの嫁の眼だ」とつぶやく。（嫁を非難する気持ち）

もう一人のお婆さんは、「わたしは、あんな眼で嫁を見ていたのかなあ」とつぶやいた。（自分の非に気づいた心境）

同じ絵を見ているのに「嫁の眼」としか見えない世界にいる人と、「自分の姿」がそこに見える世界に生きている人とどちらが幸せでしょうか。あなたはどちらを選びますか。

人間の知性を基準にして生きるか、それとも仏様の智慧によって知らされる世界を生きるのかの違いです。偉そうなことを言っても、人間には見えていないところがあります。全てを知っていないのに、知っているつもりで生きているのは恥ずかしいことです。仏様の見ておられる世界を有縁の人々に説いてゆくのが空城君の役目です。

蓮如さん北陸のご旧跡参拝

空 早苗

今年の研修旅行は七月三日・四日に蓮如上人ゆかりの北陸方面の旅でした。

一日目は親鸞聖人が越後に流される際、鯖江の上野ヶ原に通りがかった時、地方の豪族波多野氏が親鸞聖人の教えに深く帰依し、のちに念仏の道場となった「車の道場」の旧跡へ参拝いたしました。

蓮如上人六歳の肖像画「鹿の子御影」をご安置している超勝寺参拝では偶然「蓮如上人の御真影」が、吉崎別院からのお渡し法要があり、貴重な体験をいたしました。



北陸における真宗の聖地吉崎別院を参拝し、少し山道を歩き千歳山上の吉崎道場跡地を見学しました。吉崎寺では「嫁威し肉付きの面」などの寺宝を見せて頂きました。

二日目の「鳥越一向一揆歴史館」では、信仰心に燃える本願寺門徒の民衆像や加賀の一向衆徒により約百年にわたる自治がおこなわれた様子をビデオや展示品で見学しました。

皆さん、おみやげに九谷焼、干物などを買い無事帰ってきました。

私にとって蓮如上人ゆかりの研修旅行は初めてでしたので有意義な旅でした。

来年はご一緒しませんか、お待ちしております。



釋空城の得度披露法要

御門主様より得度式を受けた空城（そらき）の得度披露法要が十一月十六日（日）、晴天のなか執り行われました。約百二十余人の門信徒の方々が参拝し祝ってくださいました。

思えば、空城はお寺の長男として生まれるご縁に恵まれ、再建された信行寺の本堂にお参りくださるご門徒の方々に見守られながら、法座の度にお勤めの席に出させていただき、お念仏の声を聞きながら育ってきました。三歳で法要に初めて出ました。字も読めないのにお経



の本を手を持ち、長い間がんばって座っていたのが、つい昨日のこのようです。

皆様に声をかけていただくうちにしだいに自覚と感謝の気持ちが高まりましたように思います。幼い頃からお寺に参るといふ仏縁はとても大切です。仏縁の種がやがて芽を出し花が咲いてくれることでしょう。これもすべて阿弥陀様のお育てと喜んでいます。

この度の法要でたくさんの方に温かい励ましのお言葉を掛けて頂き、誠に有り難く、また気の引き締まる思いがいたしました。これからもご指導よろしくお願いいたします。

初参式（しよざんしき）

信行寺の三男秀爾夫妻の長男の莞爾（かんじ）くんが、この八月に満三ヶ月を迎え、本堂で「初参式」を受けました。おさな子の手にお数珠が握られ、お勤めと両親へ住職からの法話がありました。

お寺にお参りし、「初参式」を受けることも、大

きな意味があります。

子供達が「お念仏」を継承していくこと、素直に感謝できる人になっていくこと、これは人間にとって一番大切なことです。どうぞ、小さなお子様とぜひ一緒にお参りして下さい。



もともと剃髪出家して僧侶になることを得度といます。親鸞聖人は九歳で出家して比叡山に上られました。生まれ育った家や故郷を離れ、僧侶の集団生活のなかで仏教を学び、厳しい修行をつんでいくのが出家の道であります。親鸞聖人はその後、二十九歳で法然上人に出逢われてお念仏一つで救われていく他力念仏の道を歩むことになりました。そして出家の道ではなく、妻子を伴って在家の生活のなかで念仏をいただくことができました。

ですから浄土真宗で得度をして僧侶になるというのは、出家をして戒律を受けるわけではありません。十二日間の研修の後、剃髪をして得度式を受けたら僧侶としての資格を得た事になります。その後門信徒方と共に自ら念仏のみ教えを仰ぎつつ研鑽を積み、仏法を伝えていく人となるということです。得度式では法名を授かります。仏弟子としての名前を法名といいます。漢字二字ときめられており、うえに必ず「釋」の字がきます。お釋迦さまの弟子にさせていただきました、という意味があります。また、ご門徒の方々も本山で帰敬式を受けて御門主様より法名をいただくことができます。

このように仏弟子としてお念仏を申させていただくご縁に恵まれることは大変希有なことです。多くの生き物の中で人間に生れさせていただくことは稀であり、そのなかで仏法のご縁に遇うことはさらに稀であると釈尊はおっしゃっています。子や孫が生まれた時に、はかり知れない因縁をいただいて人間としての生命を受けたことを喜び、遇い難い仏法のご縁とさせていただくのが「初参式」です。

空城君の得度

森本 勝

私が初めて信行寺さんにご縁を得て訪ねるようになってから、もう十数年が経ちました。

その頃、空城君は坊守さんに抱かれており、光輪ちゃんはまだ生まれていませんでした。それが昨今、空城君は高校に、光輪ちゃんは中学に進学すると聞いて、過ぎ去った月日の速さに驚かされました。

丸刈りの頭で挨拶に立った空城君は、住職よりも背は高く、あと何年かで父君も抜いて見上げるばかりの偉丈夫になっていることだろうと頼もしい限りです。

この度は得度を受けて名実ともに五代目の住職を継ぐ人が誕生したわけですから、こんなめでたい事はありません。最近はどのお寺でも後継者難で、お寺の長男でありながらお寺を継ぐことを嫌がる傾向があり、自分勝手な道に進むことで住職の心痛を

煩わせているということをよく耳にします。そのような中、幼少よりお寺を継ぐ覚悟ができていたこの度の空城君得度には讃嘆の外ありません。

いつの日か

住職とし

て演壇に

立ち、門

徒さんを

前に法話

をなさる

日もある

ことと想

像しますが、自分の余生を考えるとそれは想像の世界でしかないことが残念です。



念仏奉仕団に参加して

谷川 恵美子

本願寺内のいちょうも色づき、菊花展も開かれ、良い時候に参加させて頂きました。参加回数も今年で十回目となり、お陰さまで表彰していただきました。

初めは、亡義父（谷川俊雄）に勧められて、一緒に参加いたしました。

義父は本当に熱心な方でした。「お寺に参ることはなかなか出来ないものだ、自分の身体が悪くても、家族に病人がいても出来ないものだから、行ける時にはどうにでもして必ずお参りしなさい」と、いつでも法座



へ参る事を進めてくれました。

私は、昔は元気やと思い、いつでもお参り出来ると思っておりましたが、最近はどうでもないなあとつくづく思うようになりしました。

奉仕団では、

朝のお勤め、清掃活動、お抹茶の接待と飛雲閣の見学、夜の法話とスケジュールはもりだくさん。毎年楽しく参加しております。

日程の最後には、もみじの美しい真如堂にも立寄り拝観いたしました。これからも身体が続く限り参加させて頂きます。



信行寺行事予定とご案内

報恩講法要

十二月二十日 (土) 橋正信先生

二十一日 (日) 住職

二日間とも午後二時より四時まで
ご都合の良い日に合わせて一日
でもお参りください。

新春初法要

平成二十七年一月五日 (月)
午後一時より 本堂にて

お正月をお寺で楽しく迎えましょう

お勤め、法話の後みなさんと楽しく語らい
ながら、ご馳走を頂きます。

*お世話の方々が手作りの

おいしい料理を持ち寄ってくださいます。

編集後記

今年度の「ほのほの」に掲載した住職のお話は、三月号では、ただ一筋お念仏申して「生きてむなくない人生」を生き抜くこと。七月号では、不完全な人間の私達を「引き受けるぞ、捨てはしないぞ」と呼びかけてくださる阿弥陀様の仰せを生活の基準にすることが肝心だ、と教えていただきました。そして今回は、私に「私自身の非」を気づかせてもらえること、それがお念仏を聞くこと、と教えてくださいます。新たな年を迎える前に、今一度読み返してみたいかがでしょうか。

今年、僧侶「釋空城」が誕生されました。信行寺にそして私達の心にやわらかなひかりが灯りました。このひかりを共に大切に守って行きたいですね。 多田 清子

*お詫び

通常十一月発行ですが、得度披露法要掲載の為
十二月になりました。